様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月 １９ 日現在

機関番号：１７７０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｋ０２４０９

研究課題名（和文）近世後期九州の国学の統合的研究

研究課題名（英文）An integrated study of Japanese studies in Kyushu in 1800s

研究代表者
亀井　森（kamei, shin）

鹿児島大学・法文教育学域教育学系・准教授

研究者番号：４０５０９８１６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は応募者が２０年来行ってきた九州各地の国学に関する研究について、その各地域の特性や共通性を探り、各文庫の調査を通して学者間の交流を解明しようとするものである。九州圏内の図書館・博物館・美術館・神社に書面で古典籍の所蔵調査を行い、未整理の古典籍がある場合は調査を行った。
　なお本研究期間中に熊本地震が発生し、研究に大きな支障がでてしまった。しかしながら次の研究に繋がる足がかりは作ることができたと考えている。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　本研究は九州各地の未整理古典籍の整理・目録化および九州の国学を中心とした学芸の研究を柱としている。各地での調査は本科研の期間内に始まり、調査半ばで期間を終えたものがあり、本研究によって九州各地には未整理資料の数が膨大であることが改めて判明した。本科研の期間中に行った調査はほんの一握りに過ぎず、その意味では目に見えて残された成果は少ないが、継続的に調査を行うことによって古典籍資料の資料的価値を社会に還元することが可能であると考えている。
　各地の調査は平成２８年度に行った、九州圏内の博物館・神社・公共図書館に対する未整理古典籍の所蔵調査を基に調査対象および計画を策定したものである。

研究成果の概要（英文）：This research aims to elucidate the exchanges between scholars by investigating the characteristics and commonality of each region in the study on KOKUGAKU in Kyushu, which applicants have been conducting for 20 years, and conducting a survey of each library. We conducted a written survey of the collections of classical books in libraries, museums, galleries, and shrines within the Kyushu area, and conducted a survey if there were unsorted classical books. The Kumamoto earthquake struck during this research period, which greatly hindered research. However, I think we have made a foothold that will lead to the next research.

研究分野：日本文学

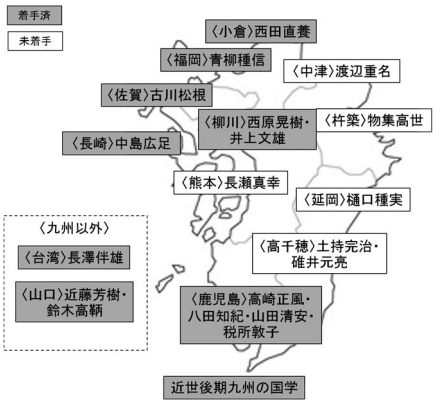
キーワード：日本近世文学　国学

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

本研究は応募者が２０年来行ってきた九州各地の国学に関する研究について、その各地域の特性や共通性を探り、各文庫の調査を通して学者間の交流を解明しようとするものである。九州圏内の図書館・博物館・美術館・神社に書面で古典籍の所蔵調査を行い、未整理の古典籍がある場合は調査を行う。既に右記のように着手済み地域に加えて、未着手の地域の調査を行うものである。



なお本研究期間中に熊本地震が発生し、研究に大きな支障がでてしまった。しかしながら次の研究に繋がる足がかりは作ることができたと考えている。

国学は武士・豪農・商人・公家・僧侶・神官・女性・遊女に至るまで広く爆発的に浸透した近世後期の新しい学問である。出発は文献主義的立場から『万葉集』『古事記』など古典テキストの原初形態を再現する事から始まり、秘伝的和歌の旧弊を打破する運動へ拡大した学問である。一方で日本の優位性・純粋性を主張することで排外的国粋的な傾向に至り、尊王攘夷思想を支える一つの要因となった。このように国学は学問的文学的側面と思想的政治的側面を併せ持つ複層的な学問である。

２．研究の目的

上記の背景を踏まえて、研究代表者は研究の目的として、以下のように大きく２本の柱を据えて国学研究に新たな視点を加えることを試みた。

１．近世後期九州の国学の統合的研究

２．台湾大学蔵『長沢伴雄自筆日記』の刊行

一つめの柱として、九州という地域で国学を捉えてみようという試みである。これまでの国学の研究は国学者単独の伝記研究や本居宣長の系統である鈴屋派、平田篤胤の平田派などの学問系統によって論じられることが大半であった。本研究は九州という地域における国学を捉えるもので従来の切り口とは異なるものである。

２つめの柱は台湾大学に所蔵される長沢伴雄の旧蔵書の調査である。第一の柱は応募者の地の利を生かしたもので、地域性を捉えようとして逆に客観性を失う可能性がある。それを防ぐために応募者が数年来取り組んできた台湾大学長沢文庫の調査を行う。長沢文庫は紀州藩の国学者長沢伴雄（ながさわともお）の旧蔵書群で、現在国立台湾大学図書館に所蔵されている。長沢伴雄は前述した九州の国学者たちと同時代人で、彼らと京都・大坂・江戸で交流していたことが分かっている。

３．研究の方法

①大分〈中津・杵築〉・宮崎〈延岡・高千穂〉・熊本の文庫・国学者の解明（未着手地域）

②福岡・長崎・小倉・鹿児島における文庫・国学者の再調査と文事の解明（着手済地域）

③台湾大学長沢文庫の調査および『長沢伴雄自筆日記』の刊行

①②については開始年度より九州内の公立図書館・博物館・神社へ郵送で未整理古典籍調査の所蔵調査を行った。これによって、４年間の調査の計画を立てることが可能となった。これは研究期間終了後においても調査に活用しており非常に有効な予備調査となった。

しかしながら前述した様に研究期間中に発生した熊本地震(2016)よって熊本の調査はもちろ

ん、九州内での調査は１年ほど自粛せざるをえなくなった。
　また③国立台湾大学図書館蔵『長沢伴雄自筆日記』公刊のための原本確認を年１回程度行った。

４．研究成果

　本研究は九州各地の未整理古典籍の整理・目録化および九州の国学を中心とした学芸の研究を柱としている。各地での調査は本科研の期間内に始まり、調査半ばで期間を終えたものがあり、本研究によって九州各地には未整理資料の数が膨大であることが改めて判明した。本科研の期間中に行った調査はほんの一握りに過ぎず、その意味では目に見えて残された成果は少ないが、継続的に調査を行うことによって古典籍資料の資料的価値を社会に還元することが可能であると考えている。以下各調査の調査記録および成果を記して報告しておく。
　平成２８年度には近世後期の柳河藩で行われていた歌合について、従来未翻刻の資料を活字化し、口頭発表にまとめた。平成２９年度には甘木歴史資料館（福岡）・熊本県立玉名高校・与論島（鹿児島）などの未整理資料を調査した。３０年度は震災によって遅れていた阿蘇神社（熊本）の調査を開始した。令和元年度には上海大学・小浜市立図書館・きつき城下町資料館などを調査した。
　各地の調査は平成２８年度に行った、九州圏内の博物館・神社・公共図書館に対する未整理古典籍の所蔵調査を基に調査対象および計画を策定したものである。

〈阿蘇神社〉
　平成３０年（2018）年２月に阿蘇神社の池浦秀隆氏より調査依頼あり。阿蘇神社所蔵の未整理古典籍は同氏による簡易的な目録はあるものの、十分なものとは言えず、資料性を鑑み、本科研によって目録化を行うこととした。
　未整理古典籍の概数はおよそ９００～１０００点と考えられる。本科研によって予備調査を含め３回調査を行ったが、研究代表者単独でのマンパワーでは作業に限界があるので、大型科研を得てチームで整理を行う予定である。
　所蔵資料の性格および位置付けは以下の通りである。
・阿蘇神社および阿蘇大宮司家の近世文書は熊本大学が調査し、デジタル撮影・目録済。
・阿蘇神社所蔵の中世文書は県立美術館に寄託。
・阿蘇神社に残されている未調査書冊は、阿蘇神社・阿蘇大宮司家の資料が混在しているが、御会始などの和歌資料の写しのほか、神道関係、垂加神道・宣長系統の書籍がある。
　なお、阿蘇神社の調査については令和２年度科研費補助金基盤研究Ｂ「近世後期写本文化の横断的研究－未整理古典籍・台湾大学・絵巻模写の学術的調査－」（研究期間：2020 年度～2024 年度（補助金）、課題番号 20H01231、研究代表者：亀井森）として継続することが決まっている。

〈きつき城下町資料館〉物集高世資料
　令和２年（2020）３月に大分県杵築市にあるきつき城下町資料館において、江戸後期から明治初期にかけて大分杵築で活動した国学者物集高世（もずめたかよ）および物集高見の関係資料を調査した。
　最終年度に始まった調査であるが和歌関係および日記等を調査・写真撮影を行った。物集高世

は小倉藩および薩摩藩の国学者らと交流していることはわかっていたがその具体的な未発表資料が見出されたことにより、今後の研究の土台を得た。５０点程度の資料であるが、新型コロナの関係で調査は中座している。

〈熊本県立玉名高校〉

平成２８年（2016）以降２回調査を行った。玉名高校へ寄贈された歴史関係・漢詩文関係を中心とした未整理古典籍で概数は５００冊程度である。

過去に玉名高校にあった貴重書（旧制熊本中学校玉名分校時代の所蔵資料）についてはすでに県教育委員会が調査し、南北朝時代の物などを玉名市立歴史博物館こころピアへ寄贈している。今回の調査資料はその残りというわけではなく、玉名高校は玉名地域の拠点として図書が集まる傾向にあるらしい。旧制高校を前身にもつ各地の高等学校も未整理古典籍を所蔵している可能性があり、今後の課題として残っている。

目録化の状況としては簡易書誌とともに表紙の写真を撮影して、エクセル化している。漢籍を中心に３０点ほどの書誌撮影を行った。全体の２０分の１程度が終了しており、今後も継続して調査を行う予定である。

〈大牟田市〉

平成２９年（2017）９月に大牟田市役所企画総務部世界遺産・文化財室の中村様の案内で、大牟田地域の古典籍の所蔵先を調査した。具体的には市史編纂室、三池カルタ・歴史資料館、石炭産業科学館をまわり、それぞれの主査・館長・学芸員の方と面会、意見交流を行った。

同２２日は九州歴史資料館を訪問。学芸員の坂井氏の案内で所蔵資料を見学・調査した。

それぞれの調査によって当該研究に資する成果を上げることができたが未整理古典籍はほとんどない。

〈鹿児島市立図書館〉

平成３０年（2018）秋より鹿児島市立図書館に所蔵される古典籍２００冊の目録を作成した。すでに簡易的な棒目録は作成されているが、国文学の専門的な視点からの作成ではないので改めて目録化を行った。その中で西南戦争錦絵５０点を図録化し今後の公開に資することができた。

また所蔵資料中に後醍醐院真柱『神代山陵考』稿本数種を見出し、鹿児島大学国語教育学会において、その稿本の意義について口頭発表を行った。

目録は現在最終的な確認作業を行っており、近日完成の予定である。

〈小浜市立図書館伴信友文庫〉

令和元年（2019）１１月に当該研究の一つである長沢伴雄の文事研究において密接なつながりを持っていた江戸時代後期の国学者伴信友（ばんのぶとも）の旧蔵書を調査した。長沢伴雄は伴信友の研究に資料を提供し、編集の助手を担っており、伴信友文庫は伴信友、長沢伴雄それぞれの文事においてその関係を窺いしることのできる資料群である。　この折の調査の成果を用いて、単著論文「伴信友『史籍年表』刊行前夜―近世後期年表編纂の一齣―」（「鈴屋学会報」第36号、pp.19-35、鈴屋学会、令和元（2019）年12月）を執筆した。調査は今後も継続する予定である。

〈船曳大滋書簡群〉

令和元年度に古書肆泰川堂よりを購入した船曳大滋関係書簡群の整理を行っている（現在進行中）。船曳大滋は筑前の人で、号を花亭・花乃舎などと称し、大石御祖神社の神官船曳大枝の子で、国学と和歌を宮崎信教に、漢学を岡永鼎に学び、次いで長崎の中島広足の門に入って皇典を学び、更に江戸に出て橘守部に師事した国学者である。書画にも優れていたが２９歳で夭折したためその文事はほとんどわかっていない。書簡は概数で 100 通以上あり、地方国学の諸相がうかがえる資料となっている。下記の要領で整理して今後の研究に生かす予定である。

〈台湾大学〉

本研究の柱の一つである長沢伴雄の文事研究において、長沢伴雄の旧蔵書である台湾大学図書館所蔵長澤文庫は大きな意味を持っている。なかでも長沢伴雄自筆日記は文事の内面を探る上で非常に重要であり、その活字化は本研究の目的のひとつであるが、その解読は難解で予想以上に進んでいない。しかしながらすこしずつ解読を進め、令和２年度には刊行の予定である。

〈霧島神宮〉

平成３０年（2018）１０月に調査を行い、神道関係の和書５０～１００冊を閲覧した。しかし、取り立てて特別な種類のものではなく神社が持っているような基本図書（古事記伝、日本書紀）で、神社の規模と蔵書の規模が不釣り合いで、神社の記録や歌会資料なども全くと言っていいほど所蔵していない。理由は不明だが、霧島神宮は阿蘇神社のように阿蘇氏の世襲制をとる神社ではないため、宮司は近代に入ってからは数年から十数年で異動をしている。その交替の際に書物を持って出たかあるいは社殿の建て替えなどの際に整理されたかもしれないとのことである。今後の神社調査においても同様の状況が考えられ、大きな知見を得ることができた。

〈筥崎天満宮〉

平成３０年（2018）１０月に筥崎天満宮（福岡市）所蔵の未整理古典籍を調査した。未整理本の概数は６００冊程度。古事記関係１０種類、万葉集略解３種、日本書紀２種、そのほか太平記・東鑑、有職故実・神道作法書・近代和装本などを確認した。伊勢外宮関係の文書のほか、氏子による奉納書籍等がみられる。

単独での調査では分量・時間的に難しく、継続調査として複数名による人海戦術をとることを神社側と確認した。これも前述科研費補助金基盤研究 B の調査に引き継ぐことを予定している。

〈上海大学〉

平成３０年（2018）年８月に上海大学（中華人民共和国）で行われた国際学会「Crossroads2018」（Association for Cultural Studies 主催）において口頭発表および学会参加した。具体的には、当該研究で中心的なテーマである国学の研究について、国学者の著作が中国古典をどのように受容して、日本化されたのか、また戦後の日本映画においてその作品がどのように受容、解釈されたのかを発表した（亀井森「映画『雨月物語』における古典の再解釈について」）。質疑応答において、当該研究へ新たな方向性が見出された。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 亀井森	４．巻 36
２．論文標題 伴信友『史籍年表』刊行前夜―近世後期年表編纂の一齣―	５．発行年 2019年
３．雑誌名 鈴屋学会報	６．最初と最後の頁 19-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 亀井森	４．巻 68
２．論文標題 鹿児島大学附属図書館玉里文庫蔵『阿蘇墨斎玄与近衛信輔公供奉上京日記』翻印	５．発行年 2017年
３．雑誌名 鹿児島大学教育学部研究紀要	６．最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計9件（うち招待講演　1件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 亀井森
２．発表標題 伴信友『史籍年表』刊行前夜
３．学会等名 鈴屋学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 亀井森
２．発表標題 震災と国文学・国語学
３．学会等名 西日本国語国文学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 亀井森
２．発表標題 伴信友『史籍年表』刊行前夜―近世後期工具書編纂の一齣―
３．学会等名 九州大学国語国文学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 亀井森
２．発表標題 映画『雨月物語』における古典の再解釈について」（Retelling the "The Tale of Ugetsu" in "Ugetsu" a Kenji Mizoguchi film.）
３．学会等名 The 12th Association for Cultural Studies "Crossroads in Cultural Studies"（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 亀井森
２．発表標題 後醍院真柱と『神代三陵志』稿本
３．学会等名 平成三十年度鹿児島大学国語教育学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 亀井森
２．発表標題 近世後期薩摩の和歌は桂園派だけだろうか。
３．学会等名 平成29年度共同研究「幕末地方歌壇の研究―佐賀藩の場合―」調査研究会
４．発表年 2017年

１．発表者名 亀井森
２．発表標題 井上文雄の和歌添削―近世後期柳河藩歌合を中心に―
３．学会等名 九州近世文学研究会
４．発表年 2016年

１．発表者名 亀井森
２．発表標題 鹿児島大学附属図書館蔵玉里文庫のデジタル化について
３．学会等名 シンポジウム「近世日本の長崎・対馬・薩摩と対外交流―情報共有基盤の構築へ向けて―」
４．発表年 2016年

１．発表者名 亀井森
２．発表標題 幕末柳河藩の歌合について
３．学会等名 柳川市史歴史講座（招待講演）
４．発表年 2016年

〔図書〕　計1件

１．著者名 白石良夫・中尾友香梨	４．発行年 2019年
２．出版社 笠間書院	５．総ページ数 402
３．書名 佐賀大学附属図書館小城鍋島文庫蔵　十帖源氏立圃自筆書入本	

〔産業財産権〕

〔その他〕

近世後期文壇研究階梯 http://kasasagi0629.blog74.fc2.com/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考